



鈴木真理乃

フルート奏者／すずきまりの

profile ●12歳よりフルートをはじめ。桐朋学園大学音楽学部を卒業。2015年全日本ジュニアクラシックコンクールで審査員賞受賞。同年よりフルート、オーボエ、ピアノのトリオ、Trio il miccioのメンバーとして活動を開始。2018年第2回K室内楽コンクール第1位を受賞。The 2nd international low flute festival 2020 alto flute concoursのファイナリストに選出。2021年千葉市芸術文化新人賞奨励賞受賞。

日々違う表情を見せてくれる
フルートを毎日吹ける幸せ

フルート奏者として演奏活動や後進の指導を続ける鈴木さんに、演奏や音楽への向き合い方や今後の活動について伺いました。

フルートを始めたきっかけと、音楽家として活動するまでの経緯を教えてください。

千葉市の小学校の音楽の先生だった祖父の元で4歳からピアノを学び、フルートと出会ったのは中学校の音楽部です。高校の吹奏楽部でもフルートを担当し、高1のときにソロコンテストで金賞を受賞したことがきっかけでフルートにはまりました。それまでは理系の大学への進学を考えていたのですが、一転して「音大に進学し将来はプロのフルート奏者になろう」と決心しました。

現在は、どんな活動を行っていますか？

コンサートやリサイタルなどの演奏活動とともに、「森のフルート教室おまり」を主宰し後進の指導にあたっています。現在は室内楽の演奏活動を多くしていて、NHKや環境省のイベント、幼稚園での演奏等積極的に行っています。フルート教室では、子どもから大人までまったくの初心者から音大受験生、コンクールやコンテストに参加する中学生や高校生まで、目的もスキルもさまざまな生徒さんを教えています。

鈴木さんが思うフルートの魅力、音楽の魅力とは何ですか？

フルートの一番の魅力は、繊細で薄い音から力強く濃い音まで、どんな音でも出せることだと思っています。鳥のさえずりや風、霧、風景や情景、ファンファーレのような華やかな音、少女からおじいさんの声まで、色彩豊かに表現することができる楽器です。フルートは、演奏するひとそのものが出る楽器でもあります。そのひとがどう過ごしてきたか、どういう思いで音色を作っているのか、そういうものが全部演奏に反映されると考えています。

私はクラシック音楽が好きなのですが、解釈や表現の仕方は演奏者によるところが大きくて、自分では思いつかない解釈の演奏に出会うことができます。それが奥深く、聴く側としての音楽の魅力につながっていると思います。演奏者が解釈して表現したものを聴いてくれるひとが受け取る。音楽を共有する時間、空間が音楽の魅力だと思います。

鈴木さんの演奏には、どんな特徴がありますか？

音色を褒めていただけることが多いです。私はアルトフルートやピッコロも吹くのですが、素材に関わらず私の音色だとすぐわかると言われます。曲によっても音色を変え、一曲の中でもいろいろな音を出しているのですが、そう言われるので私のフルートの音色は演奏を聴いてくれたみなさんに気に入ってもらえる音なのかなと思っています。

音楽家として目指すものと、今後チャレンジしたいことはありますか？

オーケストラの一員になりたいです。また、室内楽ではこれからも、同じ管楽器同士や、弦楽器、ハープやギター等様々な楽器と一緒に色々な編成での演奏会をたくさんやっていきたいと思っています。身近にクラシック音楽を楽しめるような、そんな活動を続けて行きたいです。これからも多くの曲にどんどんチャレンジして、きちんと解釈して演奏できるようにならないといけないと思っています。フルートを毎日吹けることが本当に幸せなことだと感じているので、フルートと音楽に費やせるような人生が目標です。

将来音楽家を目指すひとたちに、アドバイスをお願いします。

たくさん音楽を聴いてたくさん練習をしましょう！私も頑張ります。私がそうだったように、やるぞと決めて本気でやれば大丈夫です。ぜひ音楽の世界にいらしてください。

読者のみなさんにメッセージをお願いします。

生まれも育ちも千葉市で、いつも応援してくれる地元のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。千葉市でも大小さまざまなコンサートやリサイタルが開催されているので、私の演奏に限らず聴きに行っていたいただければと思います。

10/21には、さや堂ホールでギターとともにコンサートを開催しますので、お時間がありましたらぜひ聴きにいらしてください。